

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	嘉穂町立牛隈小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	12
児童数	14	11	15	14	20	20	0	94	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を培う理科・算数科学習指導
 —発展的学習・補充的学習の教材開発を通して—

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1年生～6年生：算数（子どもの理解度に差が出やすい教科である）
 3年生～6年生：理科（子どもの理解度に差が出やすい教科である）

(2) 年次計画

平成14年度	<p>【テーマ】</p> <p>確かな学力を培う理科・算数科学習指導 —発展的学習・補充的学習の教材開発を通して—</p> <p>【仮説】</p> <p>理科・算数科を中心に、発展的学習、補充的学習の教材開発を行い、適切な指導を工夫すれば子どもに確かな学力を培うことができるであろう。</p> <p>【研究の内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の基準を超えた発展的学習の教材を開発する。 ・学習指導要領を基準とした学習内容が未定着な子どもを援助・支援する補充的学習の教材を開発する。 ・開発した教材を生かす、習熟度別指導、少人数授業、教科担任授業、TT授業等の指導体制の在り方を工夫する。
--------	---

平成15年度	<p>【テーマ】</p> <p>確かな学力を培う理科・算数科学習指導 —発展的学習・補充的学習の教材開発を通して—</p> <p>【仮説】</p> <p>理科・算数科を中心に、開発した教材を活かす観点別学習状況の評価活動を工夫すれば子どもに確かな学力を培うことができるであろう。</p> <p>【研究の内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領を基準とした内容が定着したかどうかを評価する観点別
--------	---

学習状況の評価規準及び評価基準表を作成する。
 ・単元の各時間における観点別評価基準表に基づいた子ども一人ひとりの観点別評価一覧表を作成し、指導と評価の一体化を図る。

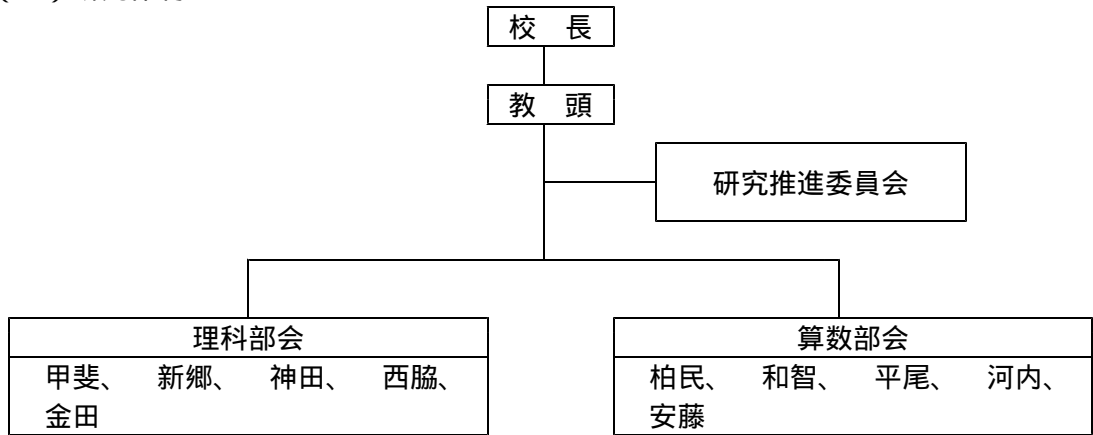
平成16年度

【テーマ】
 確かな学力を培う理科・算数科学習指導
 —発展的学習・補充的学習の教材開発を通して—

【仮説】
 学校の全教育活動で学力向上の基礎となる読書活動を推進すれば子どもに確かな学力を培うことができるであろう。

【研究の内容・方法】
 ・学力向上の基礎となる読書活動を推進するため「朝の読書活動の推奨・支援」「読書感想画の作成」「読書郵便の作成」等を工夫する。
 ・家庭と一体となった読書活動を推進するため「サンデー読書タイム」を実施する。

(3) 研究体制



小規模校であるため、年3回の公開授業を実施する教科によって、部会構成を柔軟に変更する。

平成15年度の成果及び課題

1. 研究の成果

ア 発展的学習や補充的学習などの個に応じた指導のための教材開発
 子どもが自ら学習課題を設定し、課題を解決しながら主体的に学習を進めていく発展的学習・補充的学習を組み込んだ単元計画を作成することができた。
 課題解決にあたって、インターネットや表計算などパソコンの効果的な活用を行うなど多様な学び方を体験させることができた。
 ビデオ、パソコン、テープレコーダーなどを活用して調べ、それらを使って発表していくなど、表現方法が豊かになった。
 自分の解決方法や結果についての考えの交流を通して、多様な考えやお互いの良さを認めあう学習集団づくりができた。

イ 観点別学習状況の評価規準・評価基準の作成・活用による指導と評価の一体化
 子ども一人ひとりの学習指導要領に示された目標の定着状況を確実に把握し、次時の学習課題を設定し、習熟度別指導を行うことができた。

評価補助簿を活用し、指導と評価の一体化に取り組むことができた。
習熟度別指導による発展的学習・補充的学習に対する子どもたちの主体性を高めるための自己評価テスト・教師面接を行うことができた。

2. 今後の課題

ア サンデー読書タイムの実施

本年度は、朝の10分間読書に加え、確かな学力を培う基盤となる読書活動を推進するために、読み聞かせの会、読書郵便の取組を行った。平成16年度は、さらに家庭と一体となった読書活動を推進するため「サンデー読書タイム」を計画している。

イ 学習のふりかえり活動の充実

本年度は、発展的学習・補充的学習を主体的に行わせるため自己評価テスト・教師面接を行った。平成16年度は、確かな学力向上のため子ども一人ひとりの自己評価能力を高める毎時間のふりかえり活動を充実させる必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

・学力テスト(平成15年5月)	2～6年	国・算・理(4～6年)
・福岡県学力実態調査(平成16年2月6日)	6年	国・社・算・理

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

【テーマ】	確かな学力を培う理科・算数科学習		
【教科・領域】	理科・算数科		
【対象】	保護者、地域住民、教職員		
【実施日】	平成15年 6月27日(月)	第1回授業公開	
	平成15年10月27日(月)	第2回授業公開	
	平成16年 1月28日(火)	平成15年度実践交流会	

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無